

使命感を 持って育てる、 まちそして空港

私は、国・地元自治体・経済界などでつくる関西国際空港利用促進本部の実行委員長を仰せつかっています。その立場から関空について関西の皆様をお願いしたいことがあります。

関空は2本目の滑走路が来年8月から供用開始され、貨物便も含め、利便性の向上が期待されます。しかし、供用開始にあたっての需要目標である、2007年度発着回数13万回程度の達成は容易ではありません。これには2つの大きな要因があると考えています。一つは関空が関西の人々にそれほど利用されていないということ。関経連のアンケート調査でも、関西地域から海外への出張や旅行に関空を利用している人は全体の6割程度にとどまっているという結果が出ています。もう一つは、関空は交通アクセスの不便な空港であるというイメージを払しょくできていないこと。海上空港だからそう思われてしまうのかもしれませんが、実際は30~40分で大阪の都心へ出られます。「関空は都心に近い、便利な空港だ」ということを交通アクセスを担う当社も責任を持って積極的にアピールしなければならないと考えています。来年8月にあわせてキャンペーンを行うなど、関空会社と協力し利用促進本部でも関空のさまざまなPR方法を検討していきたいですね。

このように関空会社をはじめ関空にかかわる企業が利用促進策を講じることは必要ですが、一番の方策は利用率を上げることです。利用者が増えれば航空会社も当然増便や新規便を考えますから、さらに便利な空港となり、それによってまた利用者が増えるという好循環が生まれます。関空は「騒音や公害のない空港を」と関西の人々が望んで作った空港です。この現状では残念だと思いませんか。企業のトップはもとより関西の人々は、“自分達が作った空港は自分達が責任を持って育てる”という意識を持ち、国内外の出張や旅行にぜ



山中 諄氏

Makoto Yamanaka
南海電気鉄道社長

ひとも関空を利用させていただきたいと思います。

自分達がしたこと責任を持つ—これは空港に限った話ではなく、まちづくりも同じです。思いつきで関連性も一貫性もないものを作ってはまちの魅力は薄れてしまいます。まちづくりのコンセプトをしっかりと考え、まちの賑わいを作りつつ機能を果たせるものを作らなければなりません。例えば、当社では「関空のゲートシティである難波に必要なものは何か」をよく検討した上で、ショッピングスペースとオフィスビルからなる“なんばパークス”を誕生させました。市民の憩いの場になればとの思いで作った屋上公園には四季折々の花や緑があふれ、皆さんに親しまれています。来春には2期が開業し、一つのまちが完成します。ミナミだけではなく、大阪の名所となってほしいですね。

大阪はキタもミナミもあれば西も東もあるまちです。キタは東京サイズされたオシャレなまちですが、キター極では大阪のまち全体がだめになってしまうでしょう。通天閣・道頓堀・心齋橋など本来の大阪らしさが残り、本当の浪速文化があるのはミナミ。ミナミはミナミの特色を出し、大阪らしさを大切にしたいまちを作りたいですね。そうすればキタとミナミのまちにそれぞれ特徴が出て、回遊性が生まれます。人が動くことがまちの賑わいやまちの元気を生み出していくんです。

まちづくりは長い時間がかかる仕事。そこに根を下ろし、まちづくりに貢献するという使命感を持ってあた

談